

神奈川県立藤沢養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	第2回神奈川県立藤沢養護学校 学校運営協議会		
開催日時	令和4年10月25日（火曜日） 午後2時00分～4時00分		
開催場所	神奈川県立藤沢養護学校 第二被服室		
出席者	運営協議会委員7名（本校校長を含む） 事務局教職員11名		
次回開催予定日	令和4年2月中旬 開催予定		
問合せ先	所属名 藤沢養護学校 副校長 電話番号 0466-82-9413 ファックス番号 0466-83-3520		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
会議経過	<p>(1)開会</p> <p>(2)学校長挨拶</p> <p>(3)会長挨拶</p> <p>(4)学校評価部会 令和4年度学校評価(中間評価)について(報告)</p> <p>(5)切れ目ない支援部会 ・部会の取組み方針について 昨年度までは、地域の皆様への理解啓発活動として、パラスポーツのイベント開催を軸に活動を進めてきたが、感染症のまん延という社会的な状況もあり、思うように活動できない状況があった。 今まで行ってきた理解啓発活動に加え、地域のニーズと教育活動のマッチング、地域と連携した学校防災という課題に取り組んでいきたいと考えている。それぞれを学校設置部会とする力が十分ではないため、切れ目ない支援部会の中で形作りながら、必要に応じて学校課題に応じた学校設置部会に育てていきたいと考えている。 本日は、前回持ち帰った具体的な内容について説明させていただき、「地域と協働した教育活動」に向け、ご意見をいただきたい。</p>		
意見聴取	<p>(6)協議 (議長) 本日の協議は、中間評価に対する意見と、「地域と協働した教育活動」に向けて学校に協力できることの二つである。忌憚のない意見をいただきたい。まずは、中間評価から始めていきたい。 意見・質問等 (質問) 個別の支援方法をチームで検討するとは、どのようにするのか。 ⇒小学部生活の掃除の授業で、支援方法を授業者のチームで話し合っ</p>		

た。

(質問) 子ども一人ひとりへの支援ではないのか。

⇒常時一人ひとりへの個別の支援だけではなく、授業の目標を達成するためには、集団の中で必要に応じた個別の支援をするという両面が必要である。よって、授業前に支援方法をチームで話し話し合い共通理解することが重要となる。

(質問) 地域の清掃は、今後仕事にもつながる良い取り組みである。取り組みのきっかけは何か。

⇒分教室の職業の授業は、地域の中で展開している。地域でできることを探した際に、地域に密着した場所の清掃と出会った。

(意見) 仕事としてできることと、地域への奉仕という両面の意味を持つ活動である。

(質問) エントリー授業とは何か。

⇒教員自ら、授業公開し改善の意見を募るもの。学校独自の言葉。

(質問) 自分のクラスを空けて、他の教員の授業を見に行くためにどのような工夫をしているか。

⇒参観の時間、学年、クラスで担当者を交換することにより、他のクラスの授業を見たり、指導したりできるようにしている。また、授業の録画を見て、意見交換をすることも想定している。

(質問) 藤沢総合高校との学校間交流の取り組みが興味深かった。交流先の学校をどのように選んでいるのか。また、交流先の学校は、ホームページで取り組みの様子を発信している。藤沢養護の発信はいかがか。

⇒藤沢総合高校との学校間交流は、昨年も実施予定であったが、コロナ禍で、生徒が直接交流することが実現できなかった。内容もゲーム等と通した行事的なものであった。今年度は、作業学習を通じた授業交流に内容を改め、生徒間の交流が実現した。ホームページでの発信は、これらを予定している。

(意見) 高校生が奉仕活動として養護学校に来る取り組みが多いと聞いていたが、今回は、藤沢養護学校の生徒が、作業の手順や方法を高校生に教えており、それぞれの生徒が、対等な関係で学びあいながら、交流を深める取り組みがとても良い。今度もどんどん行ってほしい。

(質問) 学校間交流に参加した、高校生の振り返りの中で、否定的なコメントはなかったか。

⇒高校から報告されたコメントの中に、否定的なものはなかった。今回参加した生徒は、学校設定科目「産業社会と人間」を選択し、事前に本校職員による出前授業を受けたうえで、意欲的に参加したと聞いている。

(質問) 不祥事防止研修は、とても大切な研修であると考えている。出席率をどのようにとらえるか。また、出席率を向上させるためにどのように取り組んでいくか。

⇒この研修は、職員の悉皆研修として、総合教育センターより講師を招いで実施したものである。夏季休業中には、校内の研修の他、経験年数に応じた研修、校外での実務研修や自己研鑽研修等が行われる。当日参加できなかった職員には、後日、追加で研修を行うことで、研修の目的を達成できるようにした。出席率の向上のみではなく、不祥事防止に対する職員の意識向上に向け、日々の点検、職員間の円滑なコミュニケーションを通して、報告・連絡・相談ができるようにしていきたい。

(議長) 続いて、地域と協働した教育活動に話題を進めたい。

中間評価に向けた学校の取り組みの中で報告があった、地域が学校に求めているものと、教育活動をどのようにマッチングしていくかということに関係する内容となる。

この場では、地域にどのようなニーズがあるのか、地域が学校に期待すること、地域での役割にはどのようなものがあるかなど、地域ニーズの掘り起し、学校ができることとのマッチング、コロナ禍での実現に向けての意見等をいただきたい。

市民センターとの繋がりから話を進めていきたい。

(委員)報告にあった、六会かるた作りの作業は、地域住民の方たちで組織し、街づくりを進めている六会郷土づくり推進会議から依頼した。基本的には、地域のニーズというよりは、繋がりという目的でお願いした経緯がある。六会かるたのように繋がりアイテムを介して、地域と学校の繋がりの方があると考えている。

先日授業観察にうかがった際に、地域の小・中学校や老人施設、介護施設、事業所等とコミュニケーションを図っていると聞いた。街づくりの一環として、六会ふるさと音頭を広めていくことで、繋がりアイテムを介して、学校と地域の繋がりが持てるよう協力したい。

(議長)一番大切なのは、地域と繋がっていくということだと考える。地域と繋がる一つの手立てとして、学校が計画した行事があったが、コロナ禍でうまく進めることができなかつたものもある。パラスポーツと体験教室についてご質問があった。どうぞ、お話しください。

(委員)

パラスポーツの種目、体験教室の具体的な内容を知りたい。

⇒パラスポーツについて、今年度は、ボッチャとモルックを実施した。ボッチャは、児童生徒が取り組むだけでなく、高等部や分教室の生徒が教えることもできる。

体験教室では、英語でのコミュニケーションをしながらのバレエ教室を実施した。今後、湘南ベルマーレを招いてのサッカー教室を予定している。コロナ禍で、対象を藤沢養護学校在籍者と近隣小中学校支援級在籍者にしているが、体験教室を通じて、地域子どもたちが繋がる本来の形に戻していくことを考えている。

(委員)以前は、地域の行事に、児童生徒が参加していたと記憶しているが、最近では、参加していただいている。地域の行事に、定期的に参加することにより、地域との繋がりや、相互の理解が進むのではないかと考える。

(委員)学校防災の視点に、地域との避難訓練という項目があるが、地域の考え方や、避難訓練の実施について聞きたい。

⇒地域と学校防災の視点でお答えする。現在は、児童生徒が自分の身を守る、職員が安全に児童生徒を避難させるという、校内の取り組みにとどまっている。藤沢養護学校は、藤沢市と二次避難所の協定を結んでいる。発災後、避難所開設となった時に、学校だけでは担うことが難しいと考える。今後、地域の防災を担当する部署(藤沢市、学校が所属する自治会)と繋がる必要があると考えている。学校が所属する自治会の情報をいただき感謝する。

(委員)地域の役員は毎年変わる。まめに連絡をとり、繋がることから始めるのがよいと考える。

(議長)自治会との繋がり、今後に向け非常に重要なキーワードになると考える。話の中で、何年かやっていると、「今年は来ていないね。どうしたのかな」となるということが、印象的だった。学校には、地域に溶け込み、地域の中に存在する学校であることを意識した取り組みを期待したい。

(議長)学校だよりについて、話題提供があった。どうぞ、お話しください。

(委員)学校の近隣に住んでいるが、地域住民として、学校のことを聞く機会がほとんどない。登下校等の機会でも、困っているのかと思っても、知らないゆえに、どう対応したらよいかかわからないということもある。まずは、学校の取り組みを、地域の方に知ってもらうことが大切と考える。

お祭り等での作品展示、ホームページという発信の手段はあるが、いずれも、自分から見に行かないと情報を得ることができない。学校だよりが、地域の掲示板に貼られたり、回覧板で回ってきたりすると、学校の取り組みを知る機会が増えるのではないかと考える。

(議長)知っている人は知っているが、知らない人に、どう知らせるかが一番のテーマになると考える。少しでも学校のことを知っていただく方法として、貴重なご意見をいただいた。

(議長)地域からは、様々な取り組みや、こんなことができるというアイデア(ニーズ)、地域との繋がるアイテムや機会が提案される。しかし、実現に向けては、学校の都合が障壁になっているのではないかと感じる。

例えば、何かを依頼されたときに、急だとか、計画にないからとか、どうしてもそのように考えてしまい、せっかくのチャンスを逃してしまうことがある。いろんな学校のホームページを見ると、総合的な学習の時間や、生活単元学習、特別活動に置き換えてうまく実施しているのではないかと感じている。清掃、花壇の整備＝作業学習ではなく、活動を通した目的に応じて柔軟に考えることで、障壁を乗り越えることがキーポイントとなると考える。

(議長)話の中にもあったが、養護学校の子どもたちは、支援される存在という一方的なイメージが強くなるのではないかと感じる。地域に役立つことがある、貢献できることがあることを伝えるためにも、活動を通して外に出ていくことが大事であると考ええる。

コロナ禍で、作業学習でバザーができなくなったり、文化祭で発表ができなくなったりということがあった。学習の成果を発信するのは、バザーや行事だけではない。それに代わるやり方はいろいろある。他県では、日ごとの学習の成果を、老人ホームに行き定期的な発表する、行事だけでなく、公民館での常設展示といった発表の仕方もある。学校だよりの話があったが、掲示板に貼って終わりだけでなく、いろいろなところに、子どもたちの学習の成果が置かれることによって、取り組みを知ってもらうことにつながるかと考える。

(委員)市民センターに常設コーナーがある。そこを活用することができる。

(議長)地域の方々のいろいろな施策を学校はどんどん利用して、発信基地にすることが大きなことだと考える。

先ほど、地域との繋がりというキーワードが出たが、学校にこんなことをしてほしい、このようなことだったやってもらってもよいかな、といった、ニーズをお持ちですか。

(委員)難しい質問である。藤沢養護学校に、どのような子どもたちが通っていて、いったい何ができるのかということ、地域が知って、理解しないと、ニーズは生まれにくいし、学校側の働きかけも難しい。地域のニーズという前に、地域への情報発信、理解してもらうための努力が不足しているように感じる。分教室の寺院清掃の話があったが、六会地区で活動を地道に積み重ねることを通じて、地域住民の理解を得ることにより、初めて地域住民の藤沢養護学校へのニーズが生まれると考える。

(議長)地域の方に理解していただくためにも、情報発信はとても大事になる。分教室の取り組みがあったが、生徒の活動を見て、うちでもやってほしいというように、つながっていくこともある。

小学部の児童でも、例えば、校外歩行に行く際に、ごみ袋をもって、缶を拾ってくることによって、地域の方にこのようなことができるということを知ってもらうことになる。校外歩行に、一つ目的を加えることにより、地域貢献につながり、児童の達成感にもつながっていく。この循環が、子どもたちの豊かな学びにつながるのではないかとと思うところである。

(委員)発信は、非常に重要な要素だと考える。

障害がある人と接点のない人が、障害がある人に、どのような仕事をし

	<p>てもらいか考えても出てこない。企画する側の、考え方や、働きかけ方の工夫が大きいと考える。まずは、示すこと、見せること、知らせることが大事だと思う。発信の方法は、学校と地域の事情によって、工夫できると考える。</p> <p>やってもらったら、まずは知らせる、見せる、つながっていく、この繰り返しが地域と繋がることになる。やり方は一つではないので、学校にあったやり方を考え、実行に移してほしい。</p> <p>(議長) 情報発信が、地域と繋がるための大きなキーワードだとわかったところで、本日の協議を終了する。ありがとうございました。</p> <p>学校長より 本日は、貴重なご意見をいただき感謝する。前半、学校の取り組みの途中経過の報告において、教育活動を継続していくための力をいただいた。一方で、本校が地域の一員になることが最終的に目指すところである。そこに向かって、まずは、地域に開いて、見ていただき、知っていたき、理解を推進していくことに様々な側面から取り組むことが必要であると感じた。このことが、ゆくゆく繋がり、太いパイプに育っていくことを改めて感じたところである。</p> <p>具体については、それぞれの委員を通じて相談させていただき、御一緒に考えていただくことをお願いしながら、藤沢養護学校が地域に知っていただけるように、取り組んでいく。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p> <p>(10) 閉会</p>
<p>会 議 資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県立藤沢養護学校 学校運営協議会運営要綱 ・ 令和4年度 神奈川県立藤沢養護学校 学校運営協議会委員名簿 ・ 令和4年度 神奈川県立藤沢養護学校 学校運営協議会運営計画 ・ 令和4年度学校評価報告書（中間評価用） ・ 学校目標キーワード ・ 切れ目ない支援部会資料